

令和5年度「人権教育研究指定校事業」事業実施報告書

委託先（ 徳島県 ）

1. 調査研究のテーマ、概要

| 調査研究のテーマ | 豊かな人権感覚を身に付け、行動できる児童の育成 |
|----------|-------------------------|
|----------|-------------------------|

○調査研究のテーマを設定した目的

当校には、自分の思いをうまく伝えることができず、乱暴な言葉遣いや行動で自分の感情を表現してしまう児童がいる。そして、その言動によって相手がどのような気持ちになるかという想像力が十分身に付いていないため、相手が傷付いても、教師や保護者から諭されるまで気付かないこともある。このような児童の背景には、家庭環境において保護者との関わりが適切でなかったり、学校とのつながりが希薄化していたりして、児童の自尊感情が低下している等の原因が考えられる。

そのため、当校では人権教育年間計画や学校いじめ防止基本方針に基づき、自分や相手を大切にする児童を育成する。そして、自分の人権と他者の人権を尊重する態度を養うために、幅広い社会体験や生活体験の機会を設け、他の人の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操を培いたいと考え、本研究テーマを設定した。

○調査研究の概要

当校の児童は513名（令和6年2月28日現在）で、全体的に明るく素直で活動的である。しかし、社会環境の変化や家庭環境の多様化により、学習面・生活面ともに配慮や支援を必要とする児童が増えてきている。日常の学校生活の場面では、自分の思いや願いを相手に伝える力が十分でなく、友達とうまくコミュニケーションがとれずにトラブルになる児童もいる。そこで仲間づくりから自分や友達のよさを知り、自他を大切にできるように支援していくことが必要である。

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

徳島市津田小学校

○これまでの研究指定等の状況

なし

○学級数

25 学級（うち特別支援学級：7 学級）

○児童生徒数（R. 6. 2. 28）

全児童数：513 名

○URL

https://school.e-tokushima.or.jp/es_tsuda/

○指定理由

津田小学校のある徳島市では、令和3年3月に今後10年のまちづくりの指針となる「徳島市総合計画 2021」を策定した。その中で「多様性を認め合える！個性あふれるまち『とくしま』の創造」が目標の一つとして掲げられ、一人一人が尊重し合い個性や能力を発揮して、誰もが活躍できるまちづくりをめざし、人権尊重・多文化共生社会の実現をめざした様々な取組を進めている。

津田小学校においては、令和4年度徳島県「多様性を認め合う人権教育推進協力校事業」の指定を受け、多様性を認め合い、つながりを実感する人権教育の推進・充実に取り組んできた。保護者アンケートや児童アンケート、教職員の自己評価等を分析し、学校や児童の実態と課題を把握し、学校全体で共有して研究を進めてきている。また、人権学習を各教科や特別の教科道徳、総合的な学習の時間、特別活動等に適切に位置付け、教科横断的な視点から年間計画を作成して、それに基づき研究・実践を積み重ねてきている。

令和5年度は令和4年度の研究を更に発展させ、人権教育の推進を図るとともに、研究の成果を研究発表会等で広く普及していくことで、県内の人権教育の一層の充実及び発展につながると期待されるため、津田小学校を指定することが最適であると考えます。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題 1 つに◎印を付与

| | |
|----------------------|---|
| ①子供 | ○ |
| ②女性 | ○ |
| ③高齢者 | ○ |
| ④障害者 | ○ |
| ⑤ <u>同和問題</u> | ◎ |
| ⑥ <u>アイヌの人々</u> | ○ |
| ⑦ <u>外国人</u> | ○ |
| ⑧- 1 HIV 感染者等 | ○ |
| ⑧- 2 <u>ハンセン病患者等</u> | ○ |
| ⑨刑を終えて出所した人 | ○ |
| ⑩犯罪被害者等 | ○ |
| ⑪インターネットによる人権侵害 | ○ |
| ⑫北朝鮮当局による拉致問題等 | ○ |
| ⑬性的指向、性自認 | ○ |
| ⑭その他（災害時における人権問題） | ○ |

3. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

当校が定めるめざす子ども像「心豊かに、たくましく、ともに伸びゆく津田っ子」と実際の児童の課題を踏まえ、人権教育に関するアンケートを行った。学校全体で考察すると95%の児童が「学校で友達に会うのは楽しい」と答えている。しかし、「自分のよいところを知っている」については、65%と低い回答となっている。

また、「友達がいやなことをされているとき、その人を止めることができる」と答えた児童は72.7%となった。考察の結果、人権を守ることや差別はいけないことだとは理解しているが、それを行動化できない実践力の低さが読み取れた。

このような結果を踏まえ、各学年の発達段階や実態から、本校の課題は「自尊感情の低下」「理解しているが行動できない実践力の低さ」である。そのため、本年度は次のような研究を実施することとした。

- ①共感的な人間関係を育成し、自己肯定感・自己有用感を高める指導・支援
- ②豊かな人権感覚を身に付け、実践力を養う授業・環境づくり
- ③教職員自身の感性を磨く教職員研修の充実

○実施方法

①共感的な人間関係を育成し、自己肯定感・自己有用感を高める指導・支援

○すべての児童にとって安全・安心な居場所づくり

- ・いじめをはじめとする人権侵害を発生させない学校づくり
- ・人権標語の作成掲示、校内発表
- ・人権集会の実施（人権・いじめ防止委員会による計画・立案）
- ・「自他の人権が大切にされる」「いじめや差別は許さない」という人権尊重の雰囲気
の醸成（望ましい隠れたカリキュラムの実現）
- ・チーム学校として、教職員同士はもちろん、関係機関（SC や SSW 等）と連携・協働
した教育活動の展開

○一人一人が認められることで自己存在感を実感できる手立て

- ・多角的な広い視点からの児童理解
- ・PBS（ポジティブ行動支援）を取り入れた学校・学級づくり
- ・人権尊重の視点に立った学級目標の設定と振り返り
- ・互いに認め合える仲間づくり

○教科横断的な人権教育の実践

- ・教科横断的な視点による年間計画の作成
(各教科の目標と人権教育のつながりを意識して学習活動を計画する。)

○同和問題をはじめ様々な人権問題についての正しい知識と確かな人権感覚を身に付

け、実践行動できる教職員を育成する研修の充実

- ・ 県人権教育指導員や市人権教育・啓発講師の活用
- ・ 同和問題に関する講話の受講
- ・ 各学年で重要な柱にすえる人権課題を選択し、主体的・対話的で深い学びとなる授業づくり

②豊かな人権感覚を身に付け、実践力を養う授業・環境づくり

○一人一人が大切にされ、よさや可能性を発揮できる仲間づくり

- ・ 互いによいところを見つけて伝え合う活動
- ・ 学年の垣根を越えてありがたい気持ちを伝え合う「あったかカード」の推進
- ・ 自分の考えを伝え、友達の考えを聴く態度を育てる「つだっこナビ」の活用

○児童の自己肯定感を高める学習活動

- ・ 自分事として課題をもち、その課題解決にむけて取り組む学習
- ・ 学習の振り返りによる自己の成長・変容の見取り

○児童の自己有用感を高める学習活動の創造

- ・ 自発的・自治的な活動「一人一活」「会社活動」等の推進
- ・ 生活科や総合的な学習の時間における異学年との交流学习
- ・ 特別活動（委員会活動、クラブ活動、学校行事等）

○多様性を認め合う共感的な人間関係の育成

- ・ 互いのよさやちがいを認め合える、異年齢交流「ぴかりんタイム」の活動
（高学年が主体となって計画・実践・振り返りを行う）
- ・ 同和問題や障がい者等の個別人権課題に関する講師との交流・体験学習

③教職員自身の感性を磨く教職員研修の充実

○地域を教材とした体験・交流学习

- ・ 地域教材を使った学習・フィールドワーク
- ・ 地域人材によるゲストティーチャーの活用
- ・ 全校・家庭・地域にむけた児童の学びの発信

○家庭・地域との連携

- ・ PTA 人権教育推進部との連携（人権講演会等）
- ・ 人権ファイルを活用した、保護者との共通理解
- ・ ホームページに人権学習に関する情報の掲載
- ・ 保護者アンケートを活用した、点検・評価と改善
- ・ 懇談時や日常的に保護者との情報共有や連携を生かした指導方法の工夫・改善
- ・ 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の活用

4. 検証・評価・改善・普及

①共感的な人間関係を育成し、自己肯定感・自己有用感を高める指導・支援

校内研修に全教職員参加の研究授業と授業研究会を計画的に位置付けたことにより、教職員全体で授業の指導方法や工夫改善について共有する機会をもつことができた。また、外部講師による講話を聞き、差別の現実を直接知るとともに、人権教育を取り巻く諸情勢を学ぶなど、人権の視点をもって教科横断的に人権教育を実践することができた。令和4年度から令和5年度にかけて人権教育年間計画を見直す際に、各教科との人権教育のつながりを改めて確認した。

令和5年度には PBS 研修や部落差別に関する地域交流会等、人権教育関係の教職員研修を行い、教職員の人権感覚、指導技術の向上を図った。

今後も本校の人権教育活動の充実を図りつつ、体験をともなう授業づくりの改善などを図る。

②豊かな人権感覚を身に付け、実践力を養う授業・環境づくり

異学年交流の場「ぴかりんタイム」では、上学年が企画運営し、月に1回程度の交流を実施した。立場のちがいにより、学級内では見せない相手を思いやる言動が見受けられるようになってきた。ぴかりんタイム以外にも、休み時間や授業で積極的に交流する姿も見られ、相手意識をもって話し合うことができた。上学年が下学年に対し、遊びを企画するなど異学年で共感的な人間関係を築くことができている。活動後は感想を廊下に掲示するなど、伝え合うことで異学年とのつながりが多く見られるようになった。

人権学習の授業後には、発言やノートの感想によって人権感覚の成長や変容を評価し、授業改善に努めた。児童の感想では、自分を振り返り、今後どのように自分の行動や考え方を改善していくかと考える内容が多く見られた。また、話し合い活動を意図的に実施した結果、自分を肯定的にとらえる姿が増えている。人権アンケートの結果でも「自分のよいところを知っている」という問いに対し65%から78%に上昇がみられた。

学校全体の取組として、朝の会・帰りの会での「きらりさん」の発表や「あったか言葉を見つけよう」などの活動を通して、互いのよさを見つける視点と伝え合う行動が定着しつつある。また、異学年交流後に学年の垣根を越えた感謝の言葉を伝え合う「あったかカード」の導入を行い、校内掲示や校内放送での紹介を通して、自分の気持ちを言語化することに抵抗感が少なくなった児童が増えている。校内で行った人権アンケートでも「自分と同じように友達のことを大切にしている」等の項目が5～10%上昇した。しかし、日常生活の中では相手の事を考えて行動できていない児童もあり、引き続き継続した取組を行っていく必要がある。

③教職員自身の感性を磨く教職員研修の充実

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で家庭・地域と連携が取りづらい状況だったが、感染症対策を実施した上で保護者も参加した「インターネット安全利用教室」や人権参観日、ホームページや学年便り等の人権コーナー等、様々な啓発を行うことができた。しかし、コロナ禍以前のように家庭や地域と連携した人権啓発活動等が充分でないため、状況を見ながら啓発活動を続けていく。

令和4年度からは改めて地域教材や個別人権課題に関して交流・体験学習を見直し、内容も再構成し計画した。人と人との交流や体験から、当事者の願いや思いを直接学ぶことで、児童は視野を広げ、正しい知識を身に付けることができ、人権課題についてより身近に感じることもできた。その児童が学んだ人権学習内容を参観日や家庭で話すことにより、保護者への啓発を行うこともできた。保護者からは「差別について正しい知識を学び、自分がどう行動しなければいけないかを家庭でも話し合うことができた」等のメッセージをいただいた。

今後も学校と家庭・地域が一丸となって人権を尊重する児童の育成や人権問題の解決に向けて取り組んでいきたい。

5. 人権教育に係る年間指導計画

かもめ学級 主な学習内容とねらい

| 月 | 課 題 | 教科等 | 単元名・題材名 資料名(出典)等 | ね ら い | 評 価 |
|-----|-----------------|--------|---------------------|---|--|
| 4 | 普遍（仲間づくり・個性の尊重） | 自立活動 | 新しい友達と仲良くしよう | 自分の名前や好きなことを人に伝えることができるとともに、友達のことを知ることができる。また、人との適切な距離が分かる。 | 自分の名前や好きなことを紹介カードに表現することができるとともに、友達のことを知り、適切な距離をとることができたか。 |
| | 普遍（仲間づくり） | 自立活動 | あいさつのひみつを知ろう | あいさつをすることで自分も相手もうれしい気持ちになることを知り、進んであいさつをしようとする意欲を高める。 | あいさつをしようとする意欲を高めることができたか。 |
| 5 | 個別（仲間づくり） | 道徳 | 新しい生活を知ろう | 感染症予防のため新生活について確認し、感染した人に差別することは間違っていることを知る。 | 新生活について知り、人権を守ろうとすることができたか。 |
| 6～7 | 普遍（自尊感情・個性の尊重） | 道徳 | 幸せな学校について考えよう | どのような学校だと自分も友達も幸せに過ごすことができるか考え、安心・安全・相談できる学校が幸せであることを知る。 | 安心・安全・相談できる学校が幸せであることを知り、よい学校を作っていく意欲を高めることができたか。 |
| 9 | 普遍（個性の尊重・自尊感情） | 生活単元学習 | 自分のことを知るう・相手のことを知ろう | まわりの人と話をするので相手のことを知ることができ、やりとりをしようとする意欲を高める。 | 友達とやりとりをすることで、自分のことを伝え、相手のことを知らうとする意欲を高めることができたか。 |
| 10 | 普遍（仲間づくり・自尊感情） | 生活単元学習 | 自分の気持ちを伝えよう | 友達と会話をしたり遊んだりするときの伝え方を知り、伝えることができる。 | 泣いたり怒ったりせずにカードやことばなどを使って伝えることができたか。 |
| | 普遍（仲間づくり） | 体育 | 運動会 | 集団の場で自分の力を発揮する、やり遂げることの大切さを身につけることができる。 | 自分の力を発揮し、最後までやり遂げることができたか。 |

| 月 | 課 題 | 教科等 | 単元名・題材名 資料名(出典)等 | ね ら い | 評 価 |
|----|----------------------|--------|---------------------|---|---|
| 11 | 普遍（自尊感情） | 生活単元学習 | 自分から落ち着こう | 人や物にあたらずに自分で落ち着くことができる。 | イライラしたときに人や物にあたらずに自分で落ち着くことができたか。 |
| | 個別（子ども） | 自立活動 | いじめに気づいて行動しよう | いじめに気づいたときにどのように行動すればよいのかを知り、いじめを解決するための実践力を育てる。 | いじめを解決するための行動を知り、実践をすることができたか。 |
| 12 | 普遍（仲間づくり） | 自立活動 | ことばのよさについて知ろう | 友達とちめたときに話し合ったり、友達のよいところをメッセージカードで伝えたりすることができる。 | 自分の得意な方法を使って、トラブルを解決したり、気持ちを伝えたりすることができたか。 |
| | 普遍（仲間づくり） | 特活 | 人権集会 | 交流学級の友達と一緒に全校の場で発表することができる。 | 全校の場で発表することができたか。 |
| 1 | 普遍（仲間づくり） | 自立活動 | 相手の気持ちを考えて伝えよう | 相手に分かってもらうためには、どのような言い方をすればよいかを考えることができる。 | 相手の気持ちを考えた伝え方をしようとする意欲をもつことができたか。 |
| 2 | 普遍（仲間づくり・思いやり・個性の尊重） | 自立活動 | 幸せになることばをしろう | 「ありがとう」「ごめんなさい」「あいさつ」など相手を幸せにすることばを知る。 | 相手が幸せになることばを生活の中で使おうとすることができたか。 |
| | 普遍（仲間づくり・自尊感情） | 自立活動 | いっしょに知ろう、楽しもう | 自分のよいところを発表したり、友達のよいところを伝え合ったりすることを通して、自分のよさに気づくことができる。 | 自分のよいところや友達のよいところを伝え合うことを通して、自分や友達を好きになろうとする心育が深まったか。 |
| 3 | 普遍（仲間づくり） | 生活単元学習 | お別れ集会をしよう | プログラムや遠征の準備をしたり、片付けをしたりできる。お別れの言葉、お礼や思い出を発表し合い、卒業する6年生をお祝いする。 | 集会の準備や片付けをすることができたか。卒業する6年生に感謝の気持ちを伝えることができたか。 |

自分を大事にするとともに相手を大事にし、思いや願いを伝え合い、人とかかわることができる。

第1学年 主な学習内容とねらい

| 月 | 課 題 | 教科等 | 単元名・題材名 資料名(法典)等 | ね ら い | 評 価 |
|-------------|------------------------|-----|-----------------------|---|--|
| 4 ～ 5 | 普遍（な かまづく り） | 生活 | どきどきわ くわく1ね んせい | 自己紹介をし合い、自分の ことを人に伝えることができ るとともに、友達のことをよ く知ることができる。 | 自分のことを人に伝 え友達のことを知るこ とができたか。 |
| 4 | 普遍（な かまづく り） | 特活 | かずひろく ん（ひかり） | 友達をいたわり、仲よくし ようとする思いをもつことが できる。 | 友達に思いやりをも って仲よくしようとす ることができたか。 |
| 5 | 普遍（個 性の尊重） ☆P.14 | 特活 | どんなさも ち（ひかり） | 友達の気持ちに気づき、一 人一人の気持ちを大切にしてい こうとする意欲をもつ。 | 友達を大切にしてい こうとする意欲をもつ ことができたか。 |
| | 普遍（な かまづく り） | 道徳 | わたしらも よせて （ひかり） | 仲間はずしにされている子 の気持ちをみんなの問題とし て考え、一人一人の友達を大 切にしようとすることができ る。 | 仲間はずしにされて いる子の気持ちを考え るとともに、友達の輪 に飛び入るでいこうと する意欲をもつことが できたか。 |
| 6 | 普遍（な かまづく り） | 図工 | だいき がっこう | 自分や友達、学校を大切に し、ともに仲よく学校生活を 送っていこうとする思いをみ んなで絵に表す。 | 自分も友達ともに 仲よく学校生活を送 っていこうとする思いを 表現することができ たか。 |
| 7 | 普遍（な かまづく り） | 国語 | おおきな かぶ | 協力することの大切さを理 解し、力を合わせてよりよい 学級にしようとする気持ちを もつ。 | みんなで助け合い認 め合って、よりよい学 級にしようとする気持 ちをもつことができ たか。 |

| 月 | 課 題 | 教科等 | 単元名・題材名 資料名(法典)等 | ね ら い | 評 価 |
|----|--------------------|-----|---------------------------------|---|---|
| 9 | 個別（高 齢者） | 道徳 | おばあちゃん たのしみ （とくしま の道徳） | 高齢者に温かい心で接し、 親切にしようとする気持や行 動力をもつ。 | 高齢者と積極的に接し、 温かい心で親切にしよう とすることができたか。 |
| 10 | 普遍（な かまづく り） | 道徳 | うんどうか い（ひかり） | 身体や能力によって差別する ことは誤りであることを理解し、 友達の痛みや苦しみ、悩みなど に共感できるようにする。 | 身体や能力により差別 することなく、励まし助 け合っていこうとする気 持ちがもてたか。 |
| 11 | 普遍（な かまづく り） | 道徳 | じゃんけん （ひかり） | 好き嫌いやわがままなど、自 分勝手な行動がいかに相手を傷 つけ苦しめているかを理解し、 みんなと公平に仲よく接しよ うとすることができる。 | 好き嫌いやわがままと どが人を傷つけているこ とを知り、みんなと公平 に接しようとするこ とができたか。 |
| 12 | 普遍（慣 習・労働 観） | 特活 | ぼんごはん のしたく（ひ かり） | 男だから女だからという概念にと らわれず、働くことの大切さがわか り、進んで働くとする意欲をもつ。 | 人が生きていく上で仕事 も家事も大切であることを 理解することができたか。 |
| | 個別（障 がい者） | 道徳 | わたしのち いさいとき のこと（ひ かり） | 一人一人が大切な存在であ ることに気づき、お互いを大 切にしようとするこ とができる。 | 一人一人はかけがえの ない命をもっていること に気づき、生命尊重の気 持ちをもつことができ たか。 |
| 2 | 普遍（力を あわせて） | 特活 | さるとかに （ひかり） | 何気なくしている行動が、相 手にとっては命に関わる重大な ことになることに気づき、みん なで力を合わせて問題を解決し ようとするこ とができる。 | みんなの立ち上がる 姿から、力を合わせて不 合理や矛盾に立ち向かっ ていく必要性に気づくこ とができたか。 |
| 3 | 普遍（自 尊感情） | 生活 | もうすぐ2 年生 | 1年間を振り返り、自分の成 長に気づき、自分なりの表現方 法でまとめることができる。友 達の発表を聞き、お互いの成長 に気づくこ とができる。 | 自分の成長や良いと ころに気づき、表現する ことができたか。 |

第2学年 主な学習内容とねらい

| 月 | 課 題 | 教科等 | 単元名・題材名 資料名(出典)等 | ね ら い | 評 価 |
|----|----------------------|-----|-------------------------|--|---|
| 4 | 普遍（な かまづくり） | 特活 | かもめ学級 のお友達を 知ろう | 身近な友だちのことを知り たいに助け合って学校生活を 送っていこうとする。 | なかよく助け合お うという気持ちがも てたか |
| 5 | 普遍（思 いやり） | 道徳 | こわれたえ んびつたて （ひかり） | 自分たちの中にある「決めつ け」に気付き、自分たちの生活を 振り返って、正しいと思うことを 実行することができる。 | 自分たちの生活 の中にある「決めつけ」 に気付くことができ たか。 |
| 6 | 普遍（な かまづくり） | 図工 | 人権ポスタ ー | 自分や友達を大切にし、と もに仲良く学校生活を送っ ていこうとする思いを絵で表現 する。 | 友達と仲良く学校 生活を送っていこう とする思いを表現す ることができたか。 |
| | 普遍（な かまづくり） | 道徳 | やさしい村 の子どもたち | 自他の違いや自分の好き嫌 いとらわれないで接しようと する。 | 自他の違いを受け 入れ、誰とでも仲良 くしようとする気持 ちがもてたか。 |
| | 普遍（力 を合わせて） | 国語 | スイミー | 自分たちの生活と重ね合わ せることによって、前向きな 目的のために仲間と力を合わ せて立ち向かうことの素晴 らしさが分かる。 | 仲間と力を合わせ て行動することの素晴 らしさに気付き、自分 たちの生活の中で生か せるようになったか。 |
| 7 | 個別(障が い者) | 道徳 | とべないほ たる（ひか り） | 障がいのある人の思いや願 いについて考え、相手の気持 ちを思いやる心をもつ。 | 障がいのある人の 思いや願いについて 考えることができ たか。 |
| 9 | 個別(高齢 者) | 道徳 | おばあちゃ んの手（ひ かり） | お年寄りの生き方や知恵を 知ることにより、尊敬の念を もち、温かく接しようとする 気持ちをもつ。 | 高齢者の方に尊敬 の念をもち、温かく 接することができる ようになったか。 |
| 10 | 普遍（相 手の身にな って） | 国語 | お手紙 | 友達どうしが互いに喜びや 悲しみを分かち合い、相手の 身になって行動することの素晴 らしさに気付く。 | 相手の身になっ て行動することの素晴 らしさに気付くこと ができたか。 |
| | 普遍(なか まづくり) | 特活 | ドッジボー ル | 能力の違いによって友だち を差別することなく、仲よく 助け合おうと合うする気持ち をもつ。 | 能力の違いによっ て友だちを差別する ことの誤りに気付 き、助け合ってい こうとする気持ちが持 てたか。 |

| 月 | 課 題 | 教科等 | 単元名・題材名 資料名(出典)等 | ね ら い | 評 価 |
|----|----------------|-----|--|--|--|
| 11 | 普遍(なか まづくり) | 道徳 | ひろみちや んとゆみち やん（ひか り） | 友達の外見や能力だけで判 断することの誤りに気付き、 友達の本当の気持ちに寄り添 い仲よくすることができる。 | 友達の気持ちに寄 り添って考えられ るようになったか。 |
| | 普遍（地 域） | 生活 | ちっとなか よしまちた んけん | まちで働く人とかがかわるこ とにより、地域への親しみや 愛着をもつ。 | 津田のまちのい ろんな良さに気付く ことができたか。 |
| 12 | 普遍（く らし） | 道徳 | におい（ひ かり） | どんな仕事も社会の役に立 つ大切な仕事であることを理 解し、職業に対する正しい見 方や考え方をもちつことができ る。 | どんな仕事も社会 の役に立つ大切な仕 事であり、一生懸命 に生きる素晴らしさ を理解できたか。 |
| 1 | 普遍（な かまづくり） | 道徳 | からすのお うさま（ひか り） | 本人の努力とは無関係な外 見などで差別することの誤り に気付き、真実を見ぬき、互 いに理解し合うことができ る。 | 外見などで差別す ることの誤りに気付 き、相手を理解する ことの大切さを考え ることができたか。 |
| 2 | 普遍（偏 見と差別） | 国語 | スーホの白 い馬 | 白馬とスーホの強い心の絆 を読み取りながら、身勝手な 臆慥に終りをもち、差別は許 せないという気持ちをもつ。 | 身勝手な差別は許 せないという気持ち をもちつことがで きたか。 |
| | 普遍(命) ☆P.17 | 道徳 | おかあさん のおなか それでもわ たし（ひか り）※選択 | 自分の生命の大切さや成長 にこめられた家族の願いを知 り、自分も友だち大切な命 を持っていることを確認し合 うことができる。 | 命の大切さに気付 き、自分も相手も大 切にしようという気 持ちをもつことが できたか。 |
| 3 | 個別（男 女） | 特活 | かみひこう き（ひかり） | 男だから女だからという固 定観念で決めつけず、自分ら しさを大切にしようとする気 持ちをもつ。 | 自分らしさを大切 にし、お互いに認め 合うことができるよ うになったか。 |

第 2 学 年 人 権 学 習 年 間 計 画

相手の気持ちを考えて、みんなで助け合って生活できる。

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
|------------------|--|---------------------------------|-------------------------------|----------------------|----------------------------|----------------------|--------------------------------|--|----------------------------|------------------------|-------------------|
| 国 語 書 写 | | うれしいことば(普 遍・仲間づくり) | スイミー(普遍・ 個性の尊重) | | | お千紙(普遍・相 手の身になって) | | | | スーホの白い馬(普 遍・偏見と差別) | |
| 算 数 | おとグラフ (普遍・仲間づく り) | | | | | | 100 cmをこえる長 さ(普遍・個性の尊 重) | | | | |
| 生 活 科 | <div>春だ 今11 から2年生</div> <div>だきだきわくわくまちたんけん (普遍・思いやり)</div> <div>うごくうごくわたしのおちや (普遍・仲間づくり)</div> <div>あしたへ ジャンプ (普遍・生命の尊重)</div> <div>大きく なあれ わたしのやさい(普遍・生命の尊重)</div> <div>もっとなかよし まちたんけん(普遍・思いやり)</div> <div>生きものなかよし大作せん (普遍・生命の尊重)</div> | | | | | | | | | | |
| 音 楽 | 音がくでみんなと つながろう | | | | | | | | | | |
| 図 工 | | | 人権ポスター(普 遍・仲間づくり) | | | | | | | | |
| 体 育 | | ボールはこびおに (普遍・仲間づくり) | 水遊び(生命の安 全教育) | | リレーあそび(運動会) (普遍・力を合わせて) | | ボール投げゲーム (普遍・仲間づくり) | | | ボールけりゲーム (普遍・仲間づくり) | |
| 道 徳 | | こわれたえんぴつつ たて(普遍・仲間 づくり) | ありがとう りこうたさん(普 遍・仲間づくり) | とべないはたる (個別・障がい者) | おばあちゃんの手 (個別・高齢者) | | ひろみちゃんとゆ みちゃん(普遍・ 仲間づくり) | にょい(普遍・く らし) やさい村のなかま たち(個別・同和 問題) | からすのおりさま (普遍・仲間づく り) | おねあさんのおなか (普遍・命) | |
| 特 活 | 自分のことを友だち に紹介しよう(普遍・ 仲間づくり) | かみめ学級のお友 達を知ろう(普遍 ・仲間づくり) | リフレーン (他者理解) | | | ドッジボール(普 遍・仲間づくり) | | 人権集会(普遍・ 仲間づくり) | | | かみひこうき(個別 ・男女) |

第3 学年 主な学習内容とねらい

| 月 | 課 題 | 教科等 | 單元名・題名 資料名(出典) 等 | ね ら い | 評 価 |
|--------------|---|----------|-------------------------------|---|---|
| 4 ～ 7 | 普遍 (地域への 興味・関心) 佐野(高野 香・女生) | 総合 社会 | 知りたいな 津田の町 | 津田のまちのよさや特色に 気づき、自分の住むまちに誇 りをもつと同時に、他の地域 のよさや特色も尊重すること ができる。 | 自分の住むまちのよ さや特色に気づき、誇 りをもち、他の地域の よさや特色も尊重する ことができたか。 |
| 4 | 普遍 (なかまづ くり) | 道徳 | はじめて小 鳥が飛んだ とき (ひかり) | 自分や友達を見つめ、一人 一人がかげがえのない存在で あることを理解し、互いに認め 合い支え合いながら生活してい こうとする態度を育てる。 | 自分や友達を認め 合い、みんなで支え 合って生活していこ うとする意欲を高め ることができたか。 |
| 5 | 普遍 (地域への 興味・関心) 佐野(高野 香・女生) | 総合 社会 | 知りたいな 津田の町 | 津田のまちのよさや特色に 気づき、自分の住むまちに誇 りをもつと同時に、他の地域 のよさや特色も尊重すること ができる。 | 自分の住むまちのよ さや特色に気づき、誇 りをもち、他の地域の よさや特色も尊重する ことができたか。 |
| 6 | 普遍 (なかまづ くり) | 道徳 | 泳げた二十 五メートル (ひかり) | 学力や能力による差別に気づ き、差別に負けない強い心を育 てるとともに、友達の立場や願 いをしっかりと受けとめること ができる。 | 差別に気づき、差 別に負けない心を育 て、友達の思いを受 けとめることができ たか。 |
| 7 | 普遍(中断 と再開) | 道徳 | たった1度だ けの(ひかり) | 「たった1度だけのあやまち」 で人を判断することの誤りに 気づかせ、常に真実を確かめ、 友達を大切にしていこうとす る態度を育てる。 | 正しいと思ったこ とは、勇気をもって立 ち向かう大切さに気 付いたか。 |
| 9 ～ 12 | 普遍(命) | 総合 | 生き物パン ザイ | 生き物を育てることを通し て、命の大切さに気付く。 | 命の大切さに気付 くことができたか。 |
| 9 | 普遍(自尊 感情・個性 の尊重) ☆P.14 | 国語 | わたしと小 鳥とずっと | 自分や友達の個性を認め合 い、大切にすることができる。 | 個性を認め合い、 大切にすることがで きたか。 |
| | 個別 (障害者) 普遍 (個性の 尊重) | 体育 | かけっこ・ リレー | 身体や能力によって差別する ことは誤りであることを理解 し、違いを認め合い、励まし合 って運動することができる。 | 差別することの誤 りを理解し、違いを 認め合い、励まし合 って運動することが できたか。 |

| 月 | 課 題 | 教科等 | 單元名・題材名 資料名(出典) 等 | ね ら い | 評 価 |
|-------------|------------------------------------|-----|-------------------------|---|--|
| 10 | 普遍 (なかまづ くり) | 特活 | なかまはず し (ひかり) | くせや考え方の違いにより、 仲間はずしやいにめを、しな い、させない、許さないため に、自分にできることを考え 実行することができる。 | 仲間はずしやいに めをしない、させな い、許さないために、 自分にできることを 実行しようとするこ とができたか。 |
| 11 | 普遍 (なかまづ くり) | 特活 | ともだち (ひかり) | 仲間について深く考え、一 人一人が大切にされる学級集 団をつくらうとする思いをも ち、絵に表す。 | 一人一人が大切に される学級集団をつ くらうとする思いを 表現することができ たか。 |
| 12 | 個別(同 和問題) | 道徳 | わたしたち の村 (ひかり) | 開拓村の人々を、自分たち とは違う集団とし見ようとし る村人の意識の不合理さに気 付く。 | 自分たちとは違う と思う村人の意識の 不合理さに気付くこ とができたか。 |
| 1 ～ 3 | 普遍 (個性の 尊重・自 尊感情) | 特活 | かがやけ命 | 自分や友達の生まれてから 今までのことを知り、お互い の命を大切にすると同時に自 分のよさを生かした将来の夢 について考えることができる。 | 自他の命を大切に しようという思いをもち、 自分のよさを生かした 将来の夢について考 えることができたか。 |
| 1 | 普遍 (くらし) 個別 (女性) ☆P.15 | 道徳 | 女だから？ 男だから？ (ひかり) | 男女の性差による差別から 人権感覚を養い、身の回りに ある人権問題へと目を向けら れるようにする。 | 性差による差別か ら、身の回りの人権問 題へと目を向けよう とすることができた か。 |
| 2 | 普遍 (命) ☆P.28 | 特活 | 赤ちゃんの 時のこと (ひかり) | 家族からの聞き取りにより、 自分は周りの人の愛情や願い に支えられて大切に育てられ てきたことに気付く。 | 周りの人の愛情や 願いに支えられて大 切に育てられたこと に気付くことができ たか。 |
| 3 | 普遍 (個性の 尊重・自 尊感情) | 国語 | モチモチの 木 | 豆太が真夜中に、じきまを 助けるために医者様を呼びに 行けた理由を考え、本当の「や さしさ」について考える。 | 本当の「やさしさ」 について考えるこ とができたか。 |

第 3 学 年 人 権 学 習 年 間 計 画

自分のよさや友達のよさに気づき、認め合い、協力して生活できる。

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
|---------------------------------|--|---|---|--------------------------------------|---|--|----------------------|-------------------------|---|------------------------------|---------------------------|
| 国語 書 写 | | | | | わたしと小鳥と すずと (普遍：個性尊重) | もいちゃんのかげ おくり(普遍：命) | | | | | モヂモヂの木 (普遍：個性の尊重・自尊感情) |
| 社会 | わたしたちのまちの様子 (個別：障害者・高齢者) | | | よりよい買い物をするために (個別：女性) | | 工場ではたらく人の仕事 (個別：同和問題) | | ちいさの安全を守る (普遍：共に生きる) | | かわるわたしたちのくらし(個別：高齢者・女性) | |
| 算 数 | | | | | | | | | | | |
| 理科 | たねをまこう (普遍：命) | チョウを育てよう・植物の育ちと つくり(普遍：命) | | | いろいろなこん虫の観察 植物の一生(普遍：命) | | | | | | おもちゃランド (普遍：仲間作り) |
| つ だ っ に タ イ ム | 「つだっぴー パンヂイ 自然がすき 津田がすき」(70時間) <div><div>知りたいな津田の町(25時間) 津田の町を4コースに分けて探検し、まちの 様子を知らよう(20時間)</div><div>調べたこと、観察した ことを発表しよう (5時間)</div></div> <div><div>生き物ばんざい(10時間) 生き物に興味を持ち生態や不思議に 思ったことを調べよう(10時間)</div><div>すごいな津田の町(25時間) 地域の産業であるカマボコ工場を見 学し、わかったことや思ったことを まとめる(25時間)</div></div> <div><div>〇学習発表会や6年生を送る会を成功させよう (10時間) 友達と力を合わせて計画をたて、準備をしよう。</div></div> | | | | | | | | | | |
| 音 楽 | | | | | | | | | ちいさにつたわる音楽でつながろう 音の重なりをかんじて合わせよう(普遍：仲間づくり) | | |
| 図 工 | 絵の具と水のハー モニー (普遍：個性尊重) | | | | | | | | | | |
| 体 育 | レッツダンス(普遍：仲間づくり) | | | | かけっこ・リレー (普遍：個性の尊重) | | フコフバレー (普遍：仲間づくり) | | | フットベースボール (普遍：仲間づくり) | |
| 道 徳 | はじめて小鳥が飛 んだとき たのしいな学校 (普遍：仲間づくり) | いいたいことあつ たのかな (個別：障がい者) なかまはなし (個別：仲間づくり) | わたしのしたこと 泳げた三十五メートル おさ髪・つらい気持ち (普遍：なかまづくり) | いじわる たった一度だけなの に (普遍：仲間づくり) | お父さんの仕事 (普遍：勤労) ないた赤おに (仲間づくり) | 四人五きやく わたしだって (仲間づくり) | | わたしたちの村 (個別：同和問題) | 女だから？男だから？ (普遍：女性) | | |
| 特 活 | 会社活動を始めよう (普遍：仲間づくり、個性尊重) | 会社活動で学級のみんなと仲良くなる よう(普遍：仲間づくり、個性尊重) | | | | 会社活動で学年のみんなと仲良くなる よう(普遍：仲間づくり、個性尊重) | | | | 会社まつりをしよう (普遍：仲間づくり、個性尊重) | |

第4学年 主な学習内容とねらい

| 月 | 課 題 | 教科等 | 見元名・題所名 資料名(出典) 等 | ね ら い | 評 価 |
|---|-------------------------------|-----|---------------------------|--|---|
| 1 | 普遍 (人権教育の概念) | 道徳 | 教室はまちがうところだ | 互いに意見を述べ交流する中で、伸びるのは学力より仲間意識だと実感することができる。 | 仲間のすばらしさを感じることができたか。 |
| 4 | 個人 (差がい い者) | 総合 | かもめ・し おおかぜ学級 と交流しよう | それぞれの学級の特徴やが んばっていることを知り、共 生について考え、自分ができる ことを考えることができる。 | 高齢の方と共に生きて いくために自分にで きること何かを考える ことができたか。 |
| 5 | 普遍(仲間 づくり)・ 同和問題 の学習 | 図工 | 人権ボス ター | 自分や周りの偏見や差別に 気付き、自他の人権を大切に しようとする思いを絵で表現 することができる。 | 自他の人権を大切に しようとする思いを絵 で表現することができ たか。 |
| | 普遍(仲間 づくり) | 道徳 | いっぺんぶな ったるか(ひ かり) | 傍観者にならず、正しく適切な 行動をとろうとする判断力や行動 力を養う。 | 傍観者にならず、正しく判断 し行動しようとする意欲をもつ ことができたか。 |
| 6 | 個別 (犯罪被 害者等) | 保健 | 育ちゆく体 とわたし | 男女の発育の違いを知り、 お互いを尊重することがで きる。 | 男女が仲良くしよう とする気持ちをもつこ とができたか。 |
| | 個別 (高齢者) | 道徳 | よもぎ荘と の交流(ひ かり) | 思いやりの心をもって、だ れにでも親切にしようとする ことができる。 | 思いやりの心をもつ ことができたか。 |
| 7 | 普遍(仲間 づくり) | 道徳 | 和夫と進(ひ かり) | 外見や偏見で人を判断するこ との間違いや人権の大切さを 理解し、互いに認め合い支え 合おうとすることができる。 | 人権の大切さを理解し 互いに認め合い支え合 おうとすることができ たか。 |
| 月 | 課 題 | 教科等 | 見元名・題所名 資料名(出典) 等 | ね ら い | 評 価 |
| 9 | 個別 (災害時 における | 社会 | 自然災害に そなえるま ちづくり | 自然災害にそなえるまちづく りについて、高齢者や障がい者 の立場に立って、調べたり考え | 高齢者や障がい者の思 いや願いをとらえるこ とができたか。 |

| | | | | | |
|-------------|-----------------------------|----|------------------------------------|---|---|
| | 人権問題) | | | たりする。 | |
| | 個別(障 がい者) | 道徳 | ぼくだけのル ールはいるな い(ひかり) | 障がいのある人の願いや思いを 受け止めて、共に支え合って生き ていこうとすることができる。 | 障がいのある人の思いや願い を大切にし、共に生きていこう とすることができたか。 |
| 9 ～ 2 | 個別(障 がい者) | 総合 | ふれあいの輪 を広げよう 障がいのある 人に学ぼう | 障がいのある人の異いや思いを知り、共 に生きていくために自分にできることは何 かを考え、実践しようとするこことができる。 | 障がいのある人と共に生きて いくために自分にできることは 何かを考えることができたか。 |
| 10 | 個別(障 がい者) | 道徳 | わたしのな やみ(ひか り) | 障がいのある人に対して、そのことで差別 したり、差別したりすることがいかに非人間 的な行為であることを理解し、一人一人を尊重 し、対等の関係で存在しあえる仲間づくりを していくことができる。 | 障がいのある人と共に生きて いくことの大切さに気付くこ とができたか。 |
| 11 | 個別(災 害時にお ける人権 問題) | 道徳 | 神戸の復興は僕らの 手だ | 力を合わせて仕事をする人切さを 理解し、決まりを守ってみんなのた めに進んで働くとうする態度を養う。 | みんなのために進んで働 こうとする意欲をもつこ とができたか。 |
| 12 | 普遍(人権基 礎の育成) | 道徳 | だから、わるい(ひ かり) | 絶い人権感覚で差別を見抜き、積極的 に人権問題に取り組もうとすることが できる。 | 差別を見抜き、積極的 に人権問題に取り組もうとすることが できたか。 |
| | 普遍(人 道支援) | 社会 | 小松原 田の今 と昔 | 荒井親子がどのような思い で開拓を行ったか考えるこ とができる。 | 自らの私財をなげうち、 人々の生活の向上を願った荒 井親子の気持ちに気付くこ とができるか。 |
| 1 | 普遍(仲間 づくり) | 道徳 | 悪いとさめて いる(ひかり) | 偏見や先入観をなくし、お互いに認め 合い、みんなで問題を解決しようとするこ とができる。 | 偏見や先入観をなくすために行 動しようとするこ とができたか。 |
| 2 | 個別(同和 問題の学 習) | 道徳 | いのちをつない だ牛(ひかり) | すべての人がかけがえのない存在で あることを理解し、多様な生き方を認め 合いともに生きていこうとすることが できる。 | すべての人がかけがえのな い存在であることに気付くこ とができたか。 |
| 3 | 個別(同 和問題の 学習) | 道徳 | 差別のないま ちづくり(ひ かり) | 別をなくすための人権学習につ て正しく理解する。 | 差別をなくすためにみん なといっしょに行動する 大切さに気付くこ とができたか。 |

第 4 学 年 人 権 学 習 年 間 計 画

まわりの人と心を伝え合い、共に支え合える。

[illegible]

[illegible][illegible]

第 5 学 年 人 権 学 習 年 間 計 画

生活の中にある不合理なことや矛盾に気づき、差別をなくそうとする意欲と行動力をもつ。

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
|----------------------------|---|--|--|----------------------------|---|---------------------------------|--|--|-----------------------------|---|--|
| 国語 | 教えて、あなたの こと なまえつけてよ | きいて、きいて、 きいてみよう 見立てる | 日常を十七音で 古典の世界 目的に応じて引用 するとき | カレーライス | からたちの花 どららを遊びますか 新聞を読もう 新語 | たずねびと | よりよい学校生活のため に 四角錐が養えてくれる こと | やなせたかしーアン パシエンの英会 あなたはどう考 える | 想像力のスイッチ を入れよう 方言と共通語 | 伝わる表現を選ぼう この本紹介します | 人造じいさんとガン |
| 基 礎 | | | | | | | | | | | |
| 社会 | 日本の国上と世界 の国々 | 自然とともに生 きる人々のくらしへ アイヌの人たちへ | 米作りのさかんな地 域 | 水産業のさかんな地 域 | これからの食料生 産 | 自動車の生産には げむ人々 | 日本の工業生産と 貿易・運輸 | 情報を伝える人々 とわたしたち | くらしと産業を支 える情報通信技術 | 生活環境を守る 水俣から（ひかり） （普遍・公害患者に 対する人権侵害） | 国上を守る |
| 算 数 | | | | | | | | | | | |
| 理科 | | 植物の発芽と成長 う | メダカのとんじょう | 花から実へ | | | | | | | ヒトのとんじょう （普遍・命の尊厳） |
| つ だ つ タ イ ム | 「豊かに生きる」（70時間） | | | | | | | | | | |
| | ◎知ろう考えよう津田の環境・防災（20時間） ◎津田の町の環境・防災について調べよう ・津田の自然環境の特色 ・地域の人々のくらしとのかかわり ・あまのうさつけ ・えびそうめん ・自然災害が起きたときとの対応策を調べ、クラスで発表しよう 避難所の生活（個別・災害時における人権問題）2時間 6月 ◎情報を生かすⅠ（5時間） ・パスワード、ネット依存 等 | | | | ◎情報を生かすⅡ（15時間） ◎情報モラルについて考えよう ・SNSトラブル ・調べたり学んだりしたことをまとめて発表しよう ◎傘峽少年自然の家の計画や報告（10時間） ・自然の家の計画を立てよう ・早稲の活動報告を作ろう | | | 発信しよう（20時間） ◎学習発表会をしよう （）6年生を誘える会を成功させよう | | | |
| | 情報を生かす（個別・インターネットによる人権侵害） 10時間 6月・11月 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 音楽 | にっぽんのうた みんなのうた | 音の重なりとひび き | アンサンブルのみりよく | 響き合いを生かし て | 豊かな表現を求めて | | 日本の音楽 世界の音楽 | にっぽんのうた みんなのうた | 音楽のききどころ | 気持ちを合わせて | |
| 図 工 | | 人権ポスト（仲間づく り、制作・展開活動） | | | | | | | | | |
| 家庭 | 私が生活大発見（普遍・日 立の共創） | おいしい楽しい調理の 力 | ひと針に心をこめて | 持続可能な暮らしへも のやあそび方 | 食べて元気！ご飯 とみそ汁 | 物を生かして住み やすく | | 気持ちがつながる家 族の時間 | ミシンにトライ！手 作りで楽しい生活 | | |
| 体 育 | | ティーボール | | 心の健康（普遍・ 女性） | プレー | ハンマボール | | けがの防止 | ブルバール | | |
| 道 徳 | | みんなで話そう（個 別・障がい者） | ぼくの心のそこ（個 別・障がい者） | なかまだったのか （普遍・仲間づく り） | ママはズットといっ しんだからね（個別 ・犯罪被害者） | 不合理なときたり （個別・女性・同 和問題） | | 山の粥（普遍・同 和問題） | | | |
| 特 活 | 学級目標を作ろう （普遍・仲間づく り） | かちめ学級を知る う（個別・障がい 者） うさぎとばなさい（普 遍・仲間づくり） | もがいのちが（普遍・女 性・障がい者・高齢者） みんなの学級（普 遍・仲間づくり） | | | するうインター・ネット （個別・インター ネット） | 人権集会について （普遍・女性・障 がい者・高齢者・イン ターネットなど） | 東日本大震災を通 して | | | 「人権が大切にされ るまちづくり」をめ ざして（普遍・同 和問題） |
| | びかりんタイムの計画・運営・実施（普遍：仲間づくり） | | | | | | | | | | |
| 外 国 語 | 様々な国のあいさ つを聞こう（個別・ 外国人） | 誕生日ポスターを 作ろう | 時間割を作ろう | プロフィールカー ドを作ろう | 宝物への道案内を しよう | あこがれの人をし ようかひしよう | | 一巻のいるいろと書 画のあいさつをしよう （281・夕風人） | ランチメニューを考 えよう | 自分の町をしようか いしよう | |

第6学年 主な学習内容とねらい

| | 教 科 | 教科等 | 單元名・題材名 資料名(出典) | ね ら い | 評 価 |
|----|-----|-----|----------------------|--|---|
| 4 | | 道徳 | 権利って何だろう(ひかり) | 人権に関する法律や条約があることを正しく知り、自分の権利を大切にすると同時に、相手の権利も大切にすることができるようにする。 | 自分の権利とともに相手の権利も大切にすることができるようになったか。 |
| | | 道徳 | 宙に浮いたありかとう(ひかり) | 障がい者と共に生きる社会をつくるためには、自分や周りの人の心の寛容がまず必要であることを理解することができるようにする。 | 共に生きる社会をつくるために、自分や人々の心の寛容が必要であると理解することができるか。 |
| 5 | | 特活 | かおりの決心(ひかり) | 人権を無視する行動につられずに自分で判断し、正しいと思うことを勇気をもって行動できるようにする。 | 自分で判断し、正しいと思う行動をとることができるようになったか。 |
| | | 社会 | めぐみへ(ひかり) | 拉致問題の事態を知り、拉致問題が生命や安全を脅かす重大な人権侵害であることを認識する。 | 。拉致被害家族の思いを自分のこととして考え、協力してよりよい社会の実現に取り組もうとする意欲をもつことができたか。 |
| 6 | | 体育 | 病気の予防 みんなの保健 | ノイズに対する正しい知識を身に付け、共存共生に関する知識を深める。 | ノイズに対する正しい知識を身に付け、共存共生に関する知識を深めることができたか。 |
| 7 | | | | | |
| 9 | | 道徳 | 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題 | 新型コロナウイルス感染症について正しく理解し、感染者と共に生きる社会をつくるために自分ができることは何かを考えることができる。 | 。感染者と共に生きる社会をつくるために、自分ができることについて考えることができたか。 |
| | | 社会 | 読国下の日本 | アイヌの人々の豊かな伝統を賞かし人権を軽視した行動に対し、アイヌの人々は立ち上がるが、一層厳しい支配下におかれた事を知り、今も残るアイヌの人々への差別について理解する。 | アイヌの人々への差別と、アイヌの人々の思いを理解することができたか。 |
| 10 | | 道徳 | ネジゲット(副読本) | オ、使生の愛にある青銅機器利用に関わ影の部分を理解し、相手の気持ちを考えて行動するとともに、公共のきまりやマナーを守ることができる。 | 情報の利用と危険性をし、きまりやマナーをろうとする心情を育めることができたか。 |
| | | | | | |

| 月 | 課 題 | 教科等 | 單元名・題材名 資料名(氏)等 | ね ら い | 評 価 |
|----|---------------|-----|--------------------|---|---|
| 11 | 個別 (ハンセン病) | 特活 | 小さなかけ橋(ひかり) | ハンセン病に対する医学的・科学的な理解が不十分ことから、違った思いこみや偏見の生れ意識が生まれ、人権問題が生じたことを理解し、偏見を解消しようとした「らいでっ法」の存在と内容について知ることができる。 | ハンセン病について正しく理解し、誤った思いこみや偏見の意識から大きな人権問題が生じることを理解することができたか。 |
| | 個別(同和) | 社会 | 感染一校(ひかり) | 新しい身分制度のしめつけの中で人間としての尊厳を守るため、団結して立ち上がった人々の生きざまを学ぶことで、差別解消に向け立ち上がろうとする意欲をもつ。 | 不当な差別に耐し、差別解消に向けて立ち上がるようにする意欲をもつことができたか。 |
| | 個別(同和問題) | 社会 | 公平社運動(ひかり) | 「公平社宣言」の意義を考えると共に、今なお残る差別を解消する意欲をもつことができる。 | 公平社宣言の意義を考え、差別を解消していく意欲をもつことができたか。 |
| 12 | 個別(同和問題) | 道徳 | 教科書無償の運動(ひかり) | 憲法に定められた権利を守るために、従って強く取り戻す人々の姿に共感し、正しいことの通る世の中を作っていくこととする意欲をもつことができる。 | 権利を守るために、粘り強く取り戻す人々の姿に共感し、正しいことの通る世の中を作っていくこととする意欲をもつことができたか。 |
| | 個別(同和問題) | 社会 | 解放令(ひかり) | 解放令が元にも関わらず、差別が残った不合理的な慣習をもつともにも差別問題の解決は、単に身分制度の改革だけでなく、さまざまな施策が必要であることを理解する。自分自身が取り組む問題であることを実感して、差別解消にまかう意欲をもつことができる。 | 同和問題は、自分自身が取り組む問題であることを実感し、差別解消に向かう意欲をもつことができたか。 |
| 1 | 個別(同和問題) | 道徳 | 識字学校と学習会(ひかり) | 学習会や識字学校での学習が、差別に打ち勝つための重要な営みであることを理解し、すべての人々の人権が守られる社会を築くために自分ができることを考えることができる。 | 差別をなくすために力をつけることの重要性を理解し、すべての人々の人権を守る社会を築くために自分ができることを考えることができたか。 |
| 2 | 個別(外国人) | 社会 | 日本とつながりの深い国々 | 言葉や生活の違いを超えて、外国の人々と親しく接し、あたためたい心で助け合う、人類の幸福に役立つ人になろうとする意欲をもつ。 | 相手の信頼し、それに応える人になろうとする意欲をもつことができたか。 |
| 3 | 普遍(仲間づくり) | 特活 | 自分の問題として(ひかり) | 毎日の何気ない出来事の中にも人権が深くかかわっていることに気がつき、人権と自分の生活との関係を考えられるようにする。 | 様々な人権問題に気付く、主体的に解決していくこととする行動力を養うことができたか。 |

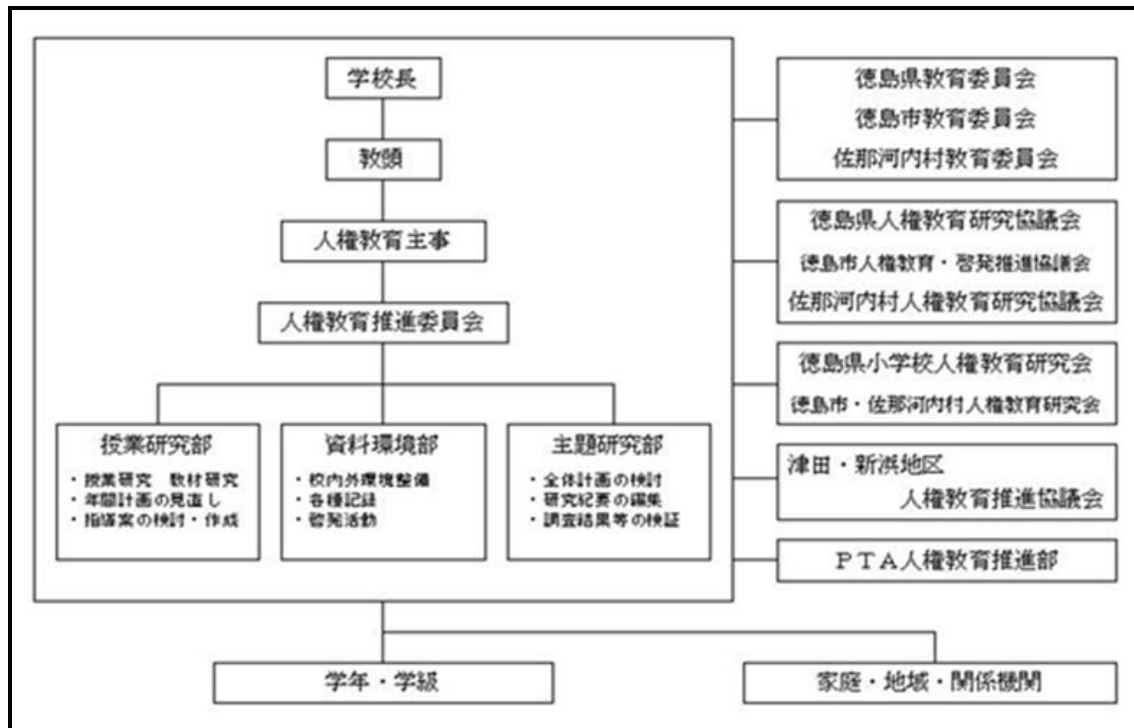
第 6 学 年 人 権 学 習 年 間 計 画

さまざまな差別の不合理や矛盾に気づき、解決しようとする意欲と行動力をもつ。

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
|-------------------------|--|--------------------------|--|--------------------|------------------------------------|--|------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|---|---------------------------|
| 国語 | 帰り道（友情） | | | | | | 伝えにくいことを伝える（普遍） | 人権作文 | | 大切な人と深くつながるために（普遍） | | 今、わたしは、ほかに（普遍） 生きる（普遍） |
| 書 | | 友情（普遍） | | | | | 温かい心（普遍） | アジアの仲間（外国人） | | | | |
| 社会 | 国づくりへの取り組み（同和問題） | 大陸に学んだ国づくり（普遍） | 武士の政治が始まる（同和問題） 主権文化と力をつける政治（同和問題）全国総 | 幕府の政治と人々の暮らし（同和問題） | 新しい文化と学園（同和問題） 明治の新しい国づくり（同和問題） | 改革一揆（同和問題） 短体斯道（同和問題） 戦争と人々の暮らし（子ども・女性・外国人・同和問題・普遍） | 平和で豊かな暮らしを目指して（子ども・女性・外国人・同和問題・普遍） | 憲法とわたしたちの暮らし（同和問題・女性・障害者・高齢者） | 身近な暮らしと政治（子ども・普遍） 国づくりへの取り組み（普遍） | 日本とつながりの深い国々（外国人） めぐみ（拉致問題） | 地球規模の課題の解決と国際協力（子ども） | |
| 算数 | | | | | | | | | | | | |
| 理科 | | ヒトや動物の体のつくりとからだ（普遍） | 植物のつくりとからだ（普遍） | 生物どうしのつながり（普遍） | | | | | | | | 自然とともに生きる（普遍） |
| つだっ こ タ イ ム | 「よりよく生きる」（70時間） | | | | | | | | | | | |
| | ◎知ろう！探ろう！歴史と文化（5時間） ◎日本の歴史と文化を調べよう。 「金閣」「銀閣」「二条城」 ◎修学旅行で見えてこよう。 ◎見学したことをまとめよう。 ◎5年生や家族に発信しよう。 ◎仕事について考えよう（5時間） | | | | | ◎ともに生きる社会を築こう（40時間） ◎自分に、より関係の深い人間関係について調べよう。 ◎自分たちができることを考え、実践しよう。 ◎人権集会で全校に発信しよう。 ◎南関東ラフ地域について調べよう 【交流】各製別課題のゲストチャーチャール戦争を語る会、津山益朗り保存会など ◎よりよく生きる（8時間） | | | | | ◎卒業プロジェクト（12時間） ◎これまでの学習や生活をふりかえり、文集づくりをしよう。 ◎学習発表会や6年生を送る会で、6年間の成長を、保護者とともにふりかえろう。 | |
| 音楽 | | | 日本の楽器に親しもう（三味線・篠笛） 「阿波踊り」（普遍） | | | | | | | 伝えよう日本の音楽。箏・尺八・篠笛 「越天楽今様」「春の海」（普遍） | | |
| 図工 | | 人権がステータ（同和問題・普遍） | | | | | | | | | | |
| 家庭 | 見つめてみよう生活時間（女性） | 朝食から健康な一日の生活を（女性） | 夏を涼しくさわやかに（女性） | | 思いを形にして生活を豊かに（女性） | まかせてお今日の食事（女性） | 冬を明るく温かく（普遍） | あなたは家庭や地域の宝物（普遍） | 生活を変えるチャンス（2年間のまとめ）（普遍） | | | |
| 保健 | 生命の安全教室（犯罪被害者） | 水泳（普遍） 病気の予防（H1V感染者等） | | | | | | | | | | |
| 道徳 | かおりの決心（普遍） | 宙に消えたあちがどう（障害者） | LGBT・Q（性自認） | わたしの友だちのこと（HIV感染者） | 技術で障がいをなくしたい（障害者） | ネチケット（インターネット） | フーバーさん（外国人） | 教科書無償の運動（同和問題） | 識字学級と学習会（同和問題） | | | |
| 特活 | 学級目標を作ろう（普遍） | 「権利」って何だろう（普遍・子ども） | 子どもの権利条約・私が違反したこと（子ども） | | | | 小さなかけ橋（ハンセン病） | 人権集会（普遍） | | | 自分のこととして（普遍） | |
| | びかりんタイムの計画・運営・実施（普遍：仲間づくり） | | | | | | | | | | | |
| 英語 | | | できることを紹介しよう（普遍） | | | | | | | | 「夢宣言」をしよう（普遍） | |

びかりんタイムの計画・運営・実施（普遍：仲間づくり）

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



人権教育年間計画

Ⅰ 本校の実態

(1) 地域・保護者の実態

本校区は、徳島市の南東にあり、周りを海や川に囲まれている。津田山を中心に、漁業で栄えた面影を残す津田地区と新しい住宅地やマンションが広がる新浜・西新浜地区の2つに大別される。

地域住民には、下校時のパトロールや地域の行事等で子どもを見守り、ともに育てていくとする温かい風土がある。

保護者は、本校の教育活動に理解を示してくれているが、PTAの活動に主体的に関わる保護者がいる一方で、あまり関心をもたず参加しない保護者もいる。人権教育に関しても同様で、PTA人権教育部主催の講演会を中心となって計画したり、主体的に関わったりする保護者もいるが、全体的に見ると参加者は少なく、人権教育への関心が高いとは言えないのが現状である。

また、津田幼稚園・小学校・中学校が隣接しており、人権教育や生徒指導面などで常に連携を図っている。

(2) 子どもの実態

児童数は、現在515名であり、子どもたちは全体的に明るく素直で活動的である。しかし、社会環境の変化や家庭環境の多様化により、学習面・生活面ともに配慮や支援を必要とする子どもが増えてきている。

令和元年度には、本校で「中・四国小学校体育研究大会」が行われた。この研究大会に向けて、「すべての子どもが参加し、挑戦する」子どもの姿をめざし、運動が得意でない子どもや苦手意識のある子どもに寄り添った授業づくりを行ってきた。その結果、子どもたちは、自分なりの課題を設定し、友達や教師と関わりながら課題解決を行う姿が見られた。「技能が高いことが優れているのではなく、自分なりの課題に対して精一杯努力することが大切」という考えをもち、自分や友達の頑張りを認め、苦手な子に対して、励ましたりアドバイスをしたりする子や、うまくいなくてもあきらめずに取り組む子どもの姿が見られた。

また、異学年活動「ぴかりんタイム」によって、上学年の子が下学年の子に優しく声をかける姿や、高学年の子どもの言葉かけにより低学年の子が新しい遊びに挑戦する姿が見られた。このような異学年での交流を通して、自分や友達のよさを知り、自他を大切にできるようになりつつある。

しかしながら、日常の学校生活の場面に目を向けると、自分の思いや願いを相手に伝える力が十分でなく、友達と上手くコミュニケーションがとれずにトラブルになる子どももいる。互いのことをよく知らないために生まれる偏見により、不適切な言動が見られたり、傍観者のような立場をとったりする子どもも見られた。体育学習の研究や異学年活動での成果を継続しながら、日常の学校生活においても自分や友達のよさを知り、自他を大切にできるように支援していくことが必要である。

(3) 令和4年度学校教育に関するアンケート集計結果より

①保護者に対するアンケート結果より（よくあてはまる・ややあてはまる）

| | R2年度 | R3年度 | R4年度 |
|----------------------------|-------|-------|-------|
| お子様は、あいさつや正しい言葉遣いをしている | 74.2% | 75.9% | 71.1% |
| お子様は、やさしく思いやりのある態度がみられる | 95.2% | 88.6% | 88.1% |
| 本校の教職員は、子どものことを理解するよう努めている | 84.4% | 84.3% | 82.8% |

本校の教職員は、保護者からの連絡や相談に、迅速かつ適切に応じている

89.3% ➡ 84.1% ➡ 85.5%

令和4年度の学校教育に関するアンケートの中から、人権に関わる項目について考察した結果、「お子様は、やさしく思いやりのある態度がみられる」については、90%程度の評価を得ているが、「お子様は、あいさつや正しい言葉遣いをしている」については69.5%→75.9%と、まだまだ厳しい評価となっている。その他の項目については、昨年度より低くなっている。令和2年度は、学校行事や懇談など保護者との連携を深める機会が少なかったことも要因の一つであると考えられる。今後も各学年の人権学習や全校での人権集会など学校における人権教育の取り組みを「津田小だより」や「学年だより」などを通して発信していきたい。また、今年度も引き続き人権学習用のファイルを作成し、定期的に持ち帰り、保護者への啓発を図りたい。

②子どもに対するアンケート結果より（よくあてはまる・ややあてはまる）

| | R2年度 | R3年度 | R4年度 |
|----------------------------------|-------|--------|--------|
| 自分から進んで、あいさつをしている | 81.6% | ➡79.3% | ➡78.4% |
| 学校生活は、楽しい | 92.3% | ➡92.6% | ➡91.8% |
| 先生方は、ルールやマナー、人の権利のことをしっかりおしえてくれる | 96.0% | ➡98.7% | ➡98.0% |
| 先生方は、あなたのことをわかってくれている | 92.4% | ➡96.1% | ➡95.8% |
| 友達となかよくして、学校生活を楽しくしている | 95.4% | ➡95.5% | ➡94.4% |
| 友達が困ったり、悩んだりしているときに親切にできている | 90.4% | ➡89.5% | ➡89.5% |

90%以上の子どもが「学校生活は楽しい」と感じている。しかし、残りの約10%の子どもが「学校生活は楽しくない」と感じていることに目を向けないといけない。今年度も引き続き、安心して過ごせる仲間づくりとともに、人との出会いや体験的な学習などを取り入れ、子どもたちが楽しいと感じ、心に残る学習を工夫していきたい。

また、自分のよさや可能性を認識することができるよう、自尊感情を高めるための取り組みを続けていくことも必要である。一人一人に応じた活躍の場を与え、友達や教師から感謝されたり、認められたりする機会を多くし、自信をもたせていきたい。子どもの気持ちに寄り添い、共感することにより、子ども一人一人の理解に努めなくてはならない。

③教職員による自己評価より（よくあてはまる・ややあてはまる）

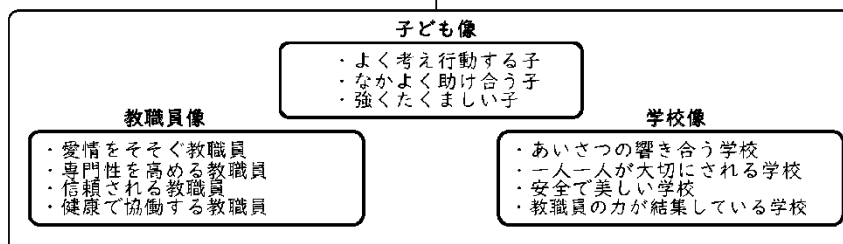
| | R2年度 | R3年度 | R4年度 |
|---------------------------------------|-------|--------|--------|
| 全教育活動において人権感覚を磨き、態度化・行動化にまで高めるよう努めている | 95.6% | ➡96.0% | ➡92.3% |
| よりよいなかまづくりを通して、思いやりの心を育成するよう努めている | 95.6% | ➡96.0% | ➡100% |

教職員の自己評価は毎年高い。教職員の取り組みが、すぐに成果として子どもの実態に表れない内容もあるが、今後も教職員自身の人権感覚を高めながら、学校教育全体を通して人権教育に取り組んでいきたい。

2 人権教育全体計画

学校教育目標

人権尊重を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた、心豊かで、たくましく生きる児童を育てる
～夢と思いやりをもち、自主自立の精神で、自己の生き方を創造する児童の育成～



人権教育目標

学校教育活動全体を通して、人権に関する知的理解を深めるとともに、鋭く豊かな人権感覚を育て、身の回りの差別や様々な人権問題を解決しようとする子どもを育てる。

人権教育重点目標

自他の人権を守るために実践行動できる子どもを育てる

学年別目標

| 学 年 | 目 標 |
|-------|---|
| かもめ学級 | 自分を大事にするとともに相手を大事にし、思いや願いを伝え合い、人と関わることができる。 |
| 1 年 | いろいろな人と関わり合い、楽しく生活できる。 |
| 2 年 | 相手の気持ちを考えて、みんなで助け合って生活できる。 |
| 3 年 | 自分のよさや友達のよさに気付き、協力して生活できる。 |
| 4 年 | まわりの人と心を伝え合い、共に支え合う。 |
| 5 年 | 生活の中にある不合理なことや矛盾に気付き、差別をなくそうとする意欲と行動力をもつ。 |
| 6 年 | さまざまな差別の不合理や矛盾に気付き、解決しようとする意欲と行動力をもつ。 |

3 人権教育推進上の基本方針

- (1) 地域や子どもの実態・問題点を把握し、全教職員の共通認識のもとに推進する。
- (2) 子どもの発達段階に即しながら、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などの特質に応じ、学校の教育活動全体を通じて人権尊重の理念についての理解を促し、一人一人を大切に教育を推進する。
- (3) 「人権に関する知識理解」(知識的側面)の習得と「人権感覚」(価値的・態度的側面、技能的側面)の向上に関連することにより、「自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度」を育て、「自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動」の育成につなげる。
- (4) 学校・家庭・地域の連携を図りながら、地域ぐるみで一貫した子どもたちへの人権教育を推進する。

4 育てたい資質・能力

(人権に関する知識の理解)

| | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|-------|---|---|--|
| 知識的側面 | <ul style="list-style-type: none"> 自分や友達にはよさがあり見付け合うことでさらに仲良くなれることを知る。 身の回りにはいろいろな立場や個性のある人々がいることを知る。 家族や先生など身近な人々の愛情に包まれて、自分が大切に育てられていることを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> 一人一人が、かけがえのない存在であり、個性を認め合うことの大切さを知る。 家族や地域・周りの人々のくらしや生き方を知り、その誇りに学び、自分をとらえ直すことができる。 偏見や差別とは何か、公平や平等とはどういうことかなどの意味を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> 個性や価値観や文化は違って当たり前で、その違いが豊かさにつながると理解することができる。 生きていくのに必要な権利を把握でき、自由・平等・社会正義等の意味を理解できる。また権利と不可分なものとして責任を自覚できる。 人権の獲得をめざして成された闘いの歴史や、その中で登場する人物や出来事、様々な立場の人々がくらしの中で創造してきた文化を知る。 人権に関する法、宣言、条約などを知る。 |

(人権感覚)

| | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|-----------|---|--|---|
| 価値的・態度的側面 | <ul style="list-style-type: none"> 自分にも周りの人にもよさがあることに気づき、大切にしようとする。 違いを認め合って、誰でも仲良くしようとする。 自分がかけがえのない存在であることを感じるとともに、自分のよさを見つけていこうとする。 身の回りにある不合理をみんなで解決しようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ありのままの自分を受け入れ、周りの人との信頼関係を築き、自信をもって生活しようとする。 人の痛みや思いが分かり、相手の立場に立って、自分のこととしてとらえようとする。 「ヒト・モノ・コト」に興味・関心をもち、広い視野をもつことと新しいものを積極的に知ることにより喜びを感じ、出会いやつながりを大切にする。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の生活や家族のことを肯定的に見つめ自分の立場を自覚し、自信と誇りをもって生きていこうとする。 お互いを認め、仲良く協力し、力を合わせるものの大切さが分かり、集団の中での自分の責任や役割を自覚し、仲間と積極的に関わり、つながろうとする。 偏見や差別、いじめなどの不正や不平等を許さず、人権尊重と正義の立場に立って、自分から進んで関わり、問題解決していこうとする。 他者・他文化に寛容になり、多様性を共感的に理解し、それぞれの「自分らしさ」を認め合いながら共に生きていくことができる。 |
| 技能的側面 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや思いを表現できる。 友達や周りの人の意見が聞ける。 わがままをおさえ、相手の意見を聞き入れたり、相手の立場に立って考えたりできる。 自分や友達のよさに気づき、伝えることができる。 身の回りの中にある不合理に気づき、自分の意見を考えることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 生活を見つめ、緩り、聴くことで、自分の気持ちを振り返り、自分自身をとらえ直すことができる。 周りの人の考えを聞き、人権の視点からものごとを判断し、考えることができる。 人とのふれあいやつながりを大切にし、よい人間関係を築くことができる。 自分のよさに気づき、主体的・積極的に体験したり行動したりできる。 話し合いや意見の発表ができ、集団の中で協力的に活動することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> くらしの中にある様々な情報を収集し、その中に存在する差別を見抜き、公平な結論を出すことができる。 差別や偏見、不合理なものに対して学んだことをもとに、自分の意見を言うことができる。 生活の中にある問題を自分たちでよりよく解決していくことができる。 相手の意見を尊重し、立場を考えながら自分の意見を主張することができる。 自分で選択・意志決定し、行動でき、その行動をふり返ることができる。 自分の中の可能性や能力に気づき、新しいものに挑戦する。 |

5 本年度人権教育研究主題

自己を見つめ、互いを認め合い、豊かな人権感覚を身に付け行動できるつだっ子の育成
— 自他のよさに気づき、安心して学び合える仲間づくりを通して —

<主題について>

自己を見つめ

様々な人との関わりの中で、自分のよさや持ち味に気づき、自己肯定感を高めることができる子ども

互いを認め合う

自分の大切さとともに他の人の大切さも認めることができ、喜びや痛みも分かち合えるような仲間づくりや人間関係づくりができる子ども

豊かな人権感覚を身に付け行動できる

人権に関する知的理解を深めたり、多様な人と関わったりすることにより、豊かな人権感覚を身に付け、部落差別をはじめとするあらゆる人権問題の解決をめざして行動できる子ども

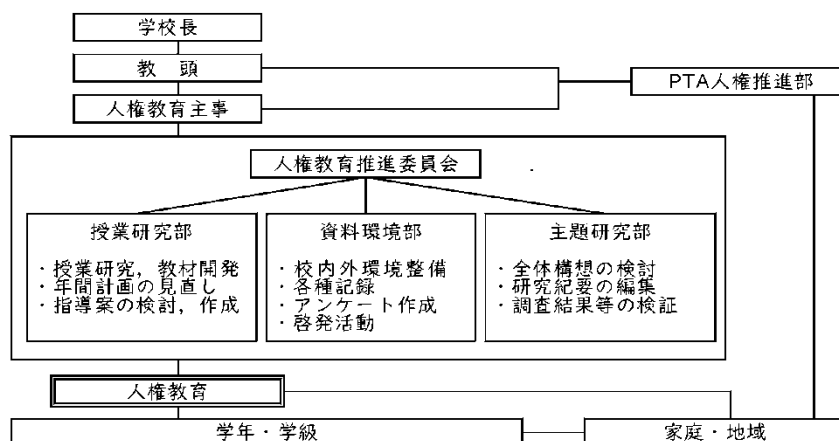
<副主題について>

「人権教育はすべての教育の基本であり、各学校においては、児童生徒の発達段階に応じ、教育活動全体を通じて創意工夫して取り組まなければならない。」（第三次とりまとめより）

— 以上のことを念頭に、研究の手立て（副主題）について述べる —

- (1) **自他のよさに気づく**…自己評価力を高めることにより、自尊感情が高まり、他者評価力も高められるようにする。
 - ①子ども一人一人の理解に努め、その子なりの頑張りを認める。
 - ②子どもが「やってみよう」と挑戦できるような、めあて・展開を設定する。
 - ③子どもの思いに寄り添い共感しながら、子どもの学びの状況（過程）を評価する。
 - ④「私はここがこれだけできた」と自分の成長（変化）に気づき、自信をもって言えるような振り返りができるようにする。
- (2) **安心して学び合える仲間づくり**…自他の人権の大切さを認識し、態度や行動に表れるようにする。
 - ①自分の意見を安心して言える授業を行う。（多様な意見を大切に）
 - ②クラスの中に居場所ができるように、一人一人のすばらしいところを共有する。
 - ③子どもの表面（言動）だけを見るのではなく背景（なぜそうしたのか）を考える。（悩みや苦しみをうまく表現できない子がいる）
 - ④日頃から、「自他の人権を守る」ために守るべきルールがあることを、子どもと共有し、子どもが納得できる生徒指導を行う。「ダメなものはダメ」の「ダメ」がなぜダメなのかきちんと説明し、納得できるようにする。
- (3) 人権に関する知的理解と人権感覚を高め、実践力を育む授業づくりに努める。
 - ①教職員研修を充実し、個別的な人権課題についての知識理解に努め、人権意識と指導力を高めるとともに、苦しんでいる人や差別されている人の立場に立つことができるようにする。（※いじめをした子どもや、差別した人の背景も考えることができるようにする。（2）③と関連）
 - ②同和問題については、徳島県の実態における重要課題として、正しい知識を理解しより確かな人権感覚を身に付け、実践行動をすることができるようになる。そして、不合理なものに対して疑問をもち、それを変革しようとする意識を高めるとともに、すべての人が幸せに生きていくための生き方を見出し行動できるようにする。

6 校内人権教育研修組織



7 教職員年間研修計画

| 月 | 研 修 | 月 | 研 修 |
|---|---|----|---|
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 不登校の未然防止研修 ○ 人権教育年間計画の作成 ○ 学力向上について ○ 新型コロナウイルス感染症対応について | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学年研修 ○ 授業研究会 ○ 授業研究会 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 食物アレルギー・エビペン講習 ○ 学年研修 ○ 児童の実態について共通理解 ○ 生徒指導上における児童理解 | 11 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育授業参観日・講演会 ○ 徳島市・佐郡河内村人権教育研究大会 ○ 全市教科部会 |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育についての共通理解 ○ 公開授業(児童理解)かもめ学級 しおかぜ学級 ○ 下校訓練 | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学年研修 ○ コンプライアンス研修 ○ 授業研究会 |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ○ コンプライアンス研修 ○ 学年研修 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報教育 ○ 学校評価・学力向上について ○ 授業研究会 |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 県人教夏期講座 ○ 市ブロック別生徒指導研修会 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育 ○ 特別支援教育中学校区連絡協議会 ○ 授業研究会 ○ 授業研究会 |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学年研修 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間計画の見直し ○ 次年度へ向けての計画 |

8 各領域・教科等における人権教育のねらい

(1) 生活指導

すべての教育活動が人権尊重の精神で貫かれ、一人一人を大切にし、互いの連帯感を育てる日常の指導を心がける。

- 教職員と子どもとの信頼関係に満ちた、温かい人間関係をつくる。
- 相互に支え合い、励まし合う仲間づくりに努めるなどして、人権の大切さを理解できるようにし、さまざまな人権問題を自分の問題として取り組めるようにする。
- 子ども一人一人が学校・学級生活の中で差別事象に気づき、その不合理や矛盾を追求する鋭い人権感覚を養えるように配慮する。
- 子ども一人一人を理解し、学級の中に居場所を確立できるようにし、支え合う集団の中で生きる喜びを実感できる仲間づくりを進める。

(2) 学校行事

| 学 校 行 事 | 人 権 教 育 の ね ら い |
|---|--|
| 入学式・始業式・終業式 修了式・卒業式 | 集団としての自覚を養い、学校全体で差別を許さない意欲と実践力をもった子どもを育てる。 |
| 観劇など | 人間性豊かな心情を育て、相手の気持ちになって主体的に取り組む態度を養う。 |
| 身体測定・交通安全教室 プール開き・運動会 新体力テスト・避難訓練 | 安全に気をつけて、互いに助け合い励まし合って、みんなの力で実現し、自分の問題として勇気をもって立ち向かう子どもを育てる。 |
| 校外学習・修学旅行・宿泊活動 | 校外学習・集団宿泊の行事を通して、支え合い励まし合って、温かい人間関係を育てる。 |
| 大掃除・プール掃除 | 勤労生産・奉仕的行事を通して、助け合い認め合って最後まで協力する態度を養う。 |

(3) 生徒指導

相手の立場に立って考え、認め合い、高め合い、共に伸びていこうとする子どもを育てる。すべての子ども一人一人の人格のよりよき発達をめざす。

(4) 特別支援教育

- ① 将来の自立に向けて必要な力を養う。
- ② 特別支援学級との交流を深め、障がいについての正しい認識をもち、互いのよさを認め合いながら、共に生きようとする態度を養う。

| 学 年 | ね ら い |
|--------|---|
| 1・2 学年 | 生活の場面からかもめ学級の友達のよさに気づき、相手を思いやる心を育てる。 |
| 3・4 学年 | かもめ学級の友達の行動や感じ方を個性として認め合い、本当の仲間として接する態度を養う。 |
| 5・6 学年 | かもめ学級の友達との関わりのなかで、障がいについての理解を深め、共に生きることの大切さが分かり、自分ならどうするかを考えて行動する行動力や実践力を育てる。 |

(5) 教科等

| 教科等 | 人権教育のねらい |
|--------|---|
| 国語 | 心情を豊かに育み、人の痛みが分かる思いやりの心を育てる。基礎的な言語能力を養い、自分の考えを豊かにして、自分の思いや願いを話したり書いたりできる能力を高める。 相手の立場を尊重しながら話し合う態度を養う。 |
| 社会 | くらしの中にある問題点を見付け、科学的なものの見方や考え方で解決していこうとする態度を育て、不合理や矛盾に立ち向かう力を養う。 地域に住む人々の生活や労働実態から、地域の課題を明らかにし、自らの生き方を考えることができる子どもを育てる。 |
| 算数 | 個々の考え方を生かした学習の流れを大切にし、論理的な思考力や数理的に処理する能力や態度を育てる。 |
| 理科 | 問題解決活動を通して、科学的・合理的に物事をとらえ、解明して追求しようとする態度を養い、日常生活における、非科学性・不合理性をなくす態度を培う。 |
| 生活 | 自然と親しみ、自然を科学的に認識できる子どもを育てる。 家庭や地域の生活に触れることから、五感を通して社会を認識できる子どもを育てる。 |
| 音楽 | 音楽経験を生かして、生活を明るく潤いのあるものにし、相互理解を深める。お互いによい点を認め合い、協力し合って合唱や合奏をやり遂げようとする態度を育てる。 |
| 図工 | 自分の願いや思いを、いきいきと創造的に表現できる能力を育てるとともに、他の作品に込められた願いや思いを感じとり、大切にする豊かな情操や態度を養う。 |
| 家庭 | 家庭生活についての基礎的な理解を深め、家族の一員として家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を養うとともに、人権尊重や科学的・合理的なものの見方・考え方を育てる。 |
| 体育 | 個人差に応じて運動の楽しさや喜びを実感することができるようにし、お互いに支え合い、協力し合って運動に取り組もうとする態度を育てる。 |
| 保健 | 身体や疾病に対する正しい知識を身に付け、心身ともに健康な生活しようとする態度を育てるとともに、命の尊さが分かり、お互いを尊重する心情を養う。 |
| 道徳 | 人権尊重の精神を基盤とし、相手の立場に立ってものを考え、行動できる心情を育てる。 |
| 特別活動 | 望ましい人間関係をつくるとともに身近な生活上の諸問題に気付き自分たちの問題として解決していく力を育てる。 |
| 総合的な学習 | 生活の中にある具体的な課題を見付け出し、それを主体的に学び問題解決しようとする資質や能力を育てる。学校から地域・社会へと学習を広げることにより、人との出会いやさまざまな体験活動を通して自分の生き方を考え、社会の一員としてともに生きようとする意欲や行動力を育てる。 |
| 外国語活動 | 外国語を通じて、互いの言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。 |

9 PTA活動における人権教育

| PTA各部 | 人 権 教 育 へ の 取 り 組 み |
|---------|--|
| 総 務 部 | ○ 各部の人権教育の推進活動の総括。 |
| 庶 務 部 | ○ 各部の人権教育の推進活動における情報伝達。 |
| 地 域 部 | ○ 交通当番や交通安全教室など、子どもの命を守る活動の計画。 |
| 文 化 部 | ○ 市P連文化祭への積極的参加を呼びかけ、出し物の内容と人権教育との関連をはかる。 |
| 広 報 部 | ○ 人権教育に対する意識調査と広報活動。 ○ 人権尊重の立場に立った原稿の作成と編集。 |
| 保健体育部 | ○ 体育行事の計画と実施により、子どもたちの交流や保護者間の交流をはかる。 |
| 家庭研修部 | ○ 家庭における人権教育の推進活動。 |
| ベルマーク部 | ○ ベルマーク活動などにより、子どもの教育環境整備への貢献。 |
| 人権教育推進部 | ○ 校内人権教育研修会の計画と実施。 ○ 人権教育講演会等各研究会への参加。 |
| まつり部 | ○ 子ども夏祭り・六右衛門祭りへの出店協力。 |

10 かもめ学級及び各学年の「人権学習年間計画」と「主な学習内容とねらい」 (次項より)